

平成28年度 保育者・子育て支援者専門研修

「3・4・5歳児の保育と発達」～就学を見通して～

日時・・・7月9日（土）14:00～16:00

場所・・・山口市立山口保育園 2階遊戯室

講師・・・大阪大谷大学 教授 長瀬美子先生

参加人数・・・94名

<講演内容>

はじめに

○気になる（大切にしたい）子どもの姿

保育において「気になる子どもが多い」「幼さが残る」「保育が積み重なっていかない」など難しさを感じるが増えていませんか？

「気になる」子どもの姿を2方向から捉えて考えてみる。

- ・発達途上で、そこを乗り越えて発達していく姿
- ・何らかの「育ちそびれ」の発現としてとらえるべき姿

3年間で取り戻しながらも前に進んでいく、それが3・4・5歳児の保育。

後退しているように見えるとき、それは1回下がってエネルギーをためているときなのかもしれない。楽しみながら子どもが自ら経験できる援助をしていきたい。

○幼児期に大切なこと「主体形成」

- ・主体的に生活する
- ・夢中になって活動に取り組む（年齢にあった活動）
- ・知的好奇心を育てる
- ・他者との豊かな関係を築く

1、幼児期の発達特性

<葛藤しながらかかわる楽しさを知る3歳児>

できないことが平気でなくなる3歳児

「できなくてもいいよ」だけでなく葛藤を乗り越えできた喜びを経験させることが大事。

大きくなった喜びを感じる1年

(1) 4歳半の節＝発達の危機的特徴を示すことがある

「赤ちゃん」から「お兄ちゃん・お姉ちゃんの世界」へ

揺れ動く心 「一人前」意識⇔「できるかな？」不安、評価が気になる

思いが先行する3歳児が、思いにふさわしい行動の仕方を見つけ学ぶ1年間

不安を前向きな葛藤に換えていけるような、その子どもにあった支え方。

(2) 生活や遊びが広がる

- ・身体を動かす楽しさを知っていきながら、コントロールする力 身体的主人公へ
 - ・あそび ごっこの世界を楽しむ、葛藤経験とかかわる楽しさ
 - ・自分の手で対象を変化させる楽しさ
- (3) 集団が育つ時期（理解、簡単な役割やルール）→入りにくい、トラブルが出やすい
ケンカの中にその時期の課題が見える

<ルールを守り、自己コントロールする力をつける4歳児>

分かる力（場面、役割、ルール）を主体とした保育の組み立て

(1) 見通しがもてて、ルールが守れるようになる

イメージの世界を楽しむ、みんなで楽しく過ごすためにルールを守ってあそぶことを楽しむ（衝突→解決→関係の深化）

自分自身の価値感に気付き、人の思いに気付く

約束事の数を増やすのではなく、ルールを守ることで気持ちよくなる、よかったと思える毎日をあそびにしていく。

(2) 言葉の発達

- ・イメージや思いにことばの発達が「追いついてくる」

思ったこと、言いたいことが言えるようになる→気持ちのコントロールへ

考えたことをしっかりことばに出せるようなあそびを仕組んでいるか？

話すことが、毎日の生活やあそび、関係を豊かにする。

<自身ととまどいの中で大きく育つ5歳児>

憧れられる存在としての意識／集団の中での自分として行動できる

目的・目標を共有する、協力する、支える、励ます／支えられ・励まされる

→「集団的達成感」を持つ、他者認識が豊かになる（深化、多面化）

4歳との大きな違いは、期待されあてにされること

担任以外の人に認められ、ほめられる喜びも経験させたい。

(1) 生活の主体になる

自分で判断して行動できる

自分の力でやり遂げることができる

機会の保障…手ごたえを感じる事ができている？受けとめ認める他者はいる？

自己コントロールは我慢することではない

“理解”と“納得”と“見通し”をどう作っていくか？

それによって、安心して自己コントロールすることができる。

(2) 学習に向かう基礎的な力がつく ← 関心を持ち、探求する力

関心が持てる魅力的な対象／探求手段・環境の用意・提供

探求を促す働きかけ（「答えを与える」保育ではなく）

(3) ことばを豊かに育てる

「自分のことばで話すこと」のていねいな指導

2、主体となれる生活

- (1) 見通しをしっかりとって生活するための手がかりがしっかり生活の中にあるか？
年齢に合った見通しの持ち方
- (2) 「協力する経験」と「他者の役に立つ喜び」を知る生活（当番活動など）
 - a. 目的の明確化
 - b. 「何をするか」だけでなく「どのように行うか」
 - c. わかりやすく、達成感が得られるもの→他児にそのがんばりが見えやすいもの
＝次の目標となる
- (3) 自分たちで問題を解決する 話し合い活動
 - a. 話し合って解決することの「手順」を知らせる
 - b. 意見の尊重の仕方を教える
 - c. 「本音」が出せること
 - d. 話し合って解決したことに対する肯定的イメージづくりを大切に
みんなで話し合うと解決できる
話し合うと楽しいことができる（実現や達成）

3、仲間とともに、夢中になってとりくみ、達成感をもつ

- (1) ごっこあそびをどう進めるか
 - a. 生活・体験から「テーマ」を見つける
 - b. 「設定」の重要性
 - c. 子どもの発想を生かす
- (2) ルールのあるあそび
「ルールのある世界」で他者とかかわり、競い、協力する経験
 - ・ルールを守ってあそぶことの楽しさを経験させる
 - ・他者に支えられて自己コントロールや気持ちの切りかえを獲得する
 - ・簡単でみんなが参加できるルール、ルールを変化させ、関係を引き出す
- (3) あそびを通して知的好奇心を育てる

①関心を持ち、探求する経験

4・5歳は疑問を持つ時期。考えながら「次どうする？」とすすめていく手ごたえを感じる。子ども自身が見つけていくこと。考えて「こうしたい、ああしたい」がたくさん出てくるあそびが◎。試行錯誤し、探求していく経験の場を保障する。

②「気付いたことを話す」ことを通して、ことばを豊かに育てる

- (4) 葛藤を乗り越えて仲間関係に：受けとめながら子どもたちの中で解決すること
 - ・保育者が解決するのではなく、子どもとともに子どもの中で解決する

- ・子ども独自（個別）の思考、発想を大切にすること
ことばのままではなく、求めていることを受けとめること
受容しながら「できた」実感をつくる

【和い輪い話しについて】（16：10～17：00）

研修終了後に、参加者の交流やおしゃべりの場“和い輪い話しルーム”として開放し、会場から出てこられる方や会場でお話しされている方に声をかけ、お誘いした。

（テーブル、イス、お茶、お菓子の用意）

それぞれがテーブルを囲んで座って自由にお話をされた。

おひさまランドの職員の方からは、保育士資格取得について質問があったので職員が説明した。

参加者 12 名程度：公立保育園、私立保育園（みやのの森保育園）、シルバー人材センター
認可外保育園（ココモ保育園、NPO 法人おひさまランド）

《参加者アンケートの抜粋》

- 子どもたちが主体となる保育を見つめなおすよい機会になりました。
心を育て子ども自身が答え、方法、仕組をいっしょに考え理由を探していくことを明日からの保育に活かしていきたいです。葛藤経験が保育の中で起こった時にはチャンスと思って受けとめ、子どもと一緒に考えていきたいと思います。
- 「育ちそびれ」について実感しているところです。少し前に戻り丁寧に保育していこうと思いました。子どもたちの心温まるエピソードを心に留めて、今のクラスの子どものちのつぶやきや思いをしっかりと受けとめて明日からがんばろうと思います。
- “気になる子どもが多い”“幼さが残る”など保育をしていて不安や葛藤があるが、今日のお話を聞いて、私のしている保育は間違っていなかったと再確認できました。
- 未満児クラスを担当していますが、3・4・5 歳児の発達を詳しく聞かせていただき、今の子どもたちにしてあげられること、こういう姿にしていくにはどのようにかかわっていくべきなのかを改めて考えさせられました。
- 自己コントロール=我慢 ではないという点にははっとしました。「守ることでみんなが気持ちいい」は私も日々子どもたちに伝えていますが、内心には、違う思いもあります。子どもに寄り添い保育していきたいと思います。
- 3・4・5 歳の発達や成長の過程が改めてよく分かった。子どもに主体を置いて、考えて自分で行動していけるように援助していくことの必要を感じた。乗り越えていくことで、前向きになっていけるように援助したり気持ちに寄り添える保育をしていきたいです。